

水を沸かす？

日本語教育学講座 M1

南 明世

水を沸かす。

→ ×

お湯を沸かす。

→ ○

金田一(1955)

才 (を)

- ・ 対格を表す。

(例、手紙を読む。 / 月を見る)

- ・ 作り出す意を表す動詞の前では、しばしば作り出される対象に才をつける。

(例、お湯を沸かす / 飯を炊く)

田中 (1997)

「穴を掘る」における「穴」は〈動作が作用する対象〉としてよりもむしろ〈動作の作用結果〉を指す目的語とみなすのが普通である。

「穴を掘る」が直接作用する対象は「穴」ではなく、名詞「穴」が呼び起こすチャンク「土」である、としている。

「土を掘って穴をあける」

対象の目的語

動詞が示す行為の対象であり、その行為によって何らかの影響を受ける。

花瓶を割る
ボールを蹴る

結果の目的語

行為の対象ではなく、行為の結果としてできるもの

お弁当を作る

家を建てる

2種類の目的語をとれるもの

(1) 折る

- a. 紙を折る
- b. 千羽鶴を折る

(4) 沸かす

- a. 水を沸かす
- b. お湯を沸かす

(2) 打つ

- a. ボールを打つ
- b. ホームランを打つ

(5) 印刷する

- a. 紙を印刷する
- b. 年賀状を印刷する

(3) 焼く

- a. 粘土を焼く
- b. 茶碗を焼く

(6) 掘る

- a. 地面を掘る
- b. 穴を掘る

どういふとふきに「水を沸かす」 が使えるのか?

- (7) コップ一杯の水を沸かすのに必要なエネルギー
- (8) 極寒の野外で水を沸かす。
- (9) 海の水を沸かすな。

紙を印刷する？

- (10) a. 新聞を印刷する。
b. 年賀状を印刷する。

・ 紙を印刷する。

- (11) a. 小さい紙を印刷するときはどう
すればいいですか。
b. マップを紙に印刷する。
c. 文書4枚を1枚の紙に印刷したい。

・ どうして「沸く」は、
「水」ではなく、結果である
「お湯」を目的語として
とるのか？

栗栖 (2006)

結果の目的語を取る動詞についての通時的考察
— 「ワカス」「ニル」「ホル」を例として—

どうして日本語は「沸かす」に「湯」という結果の目的語を取るのだろうか、という観点から、上代から近代の文献を調査し、目的語の観点から考察した。

作品名	表記	目的語	作品名	表記	目的語
万葉集	ワカス	湯	本朝二十不孝	湧す	湯
栄花物語	わかす	ゆ	男色大鑑	涌す	せんじ茶
今昔物語	ワカス	湯(8例)	森鷗外		
三教指帰注	ワカス	泉	雁	涌かす	湯
発心集	沸かす	湯	夏目漱石		
平治物語	涌ス	湯	吾輩は猫である	わかす	葡萄酒の湯
閑居集	わかす	ゆ	それから	沸かす	湯
沙石集	ワカス	飲食	門	沸かす	湯(2例)
	湧ス	海の千波	明暗	沸かす	湯
曾我物語	わかす	湯	志賀直哉		
御伽草子	わかす	湯(2例)	和解	沸かす	湯
近松門左衛門				湧かす	湯
冥途の飛脚	わかす	お湯	暗夜行路	沸かす	湯
心中宵庚申	わかす	茶、ゆ	芥川龍之介		
大経師昔歴	わかす	茶	鼻	沸かす	湯(2例)
井原西鶴			太宰治		
西鶴諸国はなし	わかす	油虫	思い出	わかす	茶
好色一代女	わかす	茶	人間失格	わかす	風呂、ミルク

「沸かす」について

- ・万葉集から近代の作品まで、「ワカス」がとる目的語は、すべて「湯」である。
- ・近世からは「茶をわかす」といった表現が表れている。

(8) 洗濯をさせるにも、雑巾掛けさせるにも、湯を涌かして使わせるのに、梅の手がそろそろ荒れてくる。

(森鷗外『雁』)

(9) 昼は水汲 茶をわかし

(井原西鶴『好色一代女』)

水を沸かすは正しい?

「沸かす」はもともと「湯」を目的語とする動詞。

「水」という働きかける対象も目的語にとれるように変化した。

「水」を目的語にとる時は、対象の「水」に関心がある時。
何らかの修飾語を伴うのがふつう。

(7)

- a. いつも新鮮な水を沸かす。
- b. 美味しい水を沸かす。
- c. やかんの水を沸かす。
- d. 2リットルの水を沸かす。
- e. お風呂の水を沸かす。

結果

- ・ 上代化から近代までは「沸かす」は結果である「湯」を目的語にとっていたが、近代では、人の表現の焦点の当て方に影響され、対象である「水」も目的語にとれる。
- ・ 「沸かす」は人の焦点の当て方に影響される。

竹林 (2007)

- ・ 未知のものを存在せしめることを表すのを本質とする。
- ・ 動詞は、未知のものを存在せしめる仕方の種類である。
- ・ 「穴を掘る」の「を」は、(非典型的な)「動作・行為の対象」用法としてとらえられる。

まとめ

- ・ 目的語をとるのは対象だと考えがちだが、結果を表す目的語もあることを知った。
- ・ 最近では人の表現の焦点の当て方に影響され、対象を取ることができなかった動詞も、ある条件下では取れることが分かった。
- ・ 動詞によって目的語が影響されていることが分かった。

今後は、結果性について、動詞を重点に見ていきたい。

参考文献

金田一春彦(1995)「日本語Ⅲ.文法」『世界言語概説 下巻』
(市河三喜・服部四朗編、研究社)：160-200

田中茂範(1997)「空間表現の意味・機能」『日英語比較選書6
空間と移動の表現』(中右実編、田中茂範・松本曜著、研究社
出版)：1-123

竹林一志(2007)『「を」「に」の謎を解く』(笠間書院)：67-74

栗栖佳美(2006)「結果の目的語を取る動詞についての通時的考
察：『ワカス』『ニル』『ホル』を例として」『広島女学院大
学国語国文学誌』36：33-52

ご清聴、
ありがとうございました。